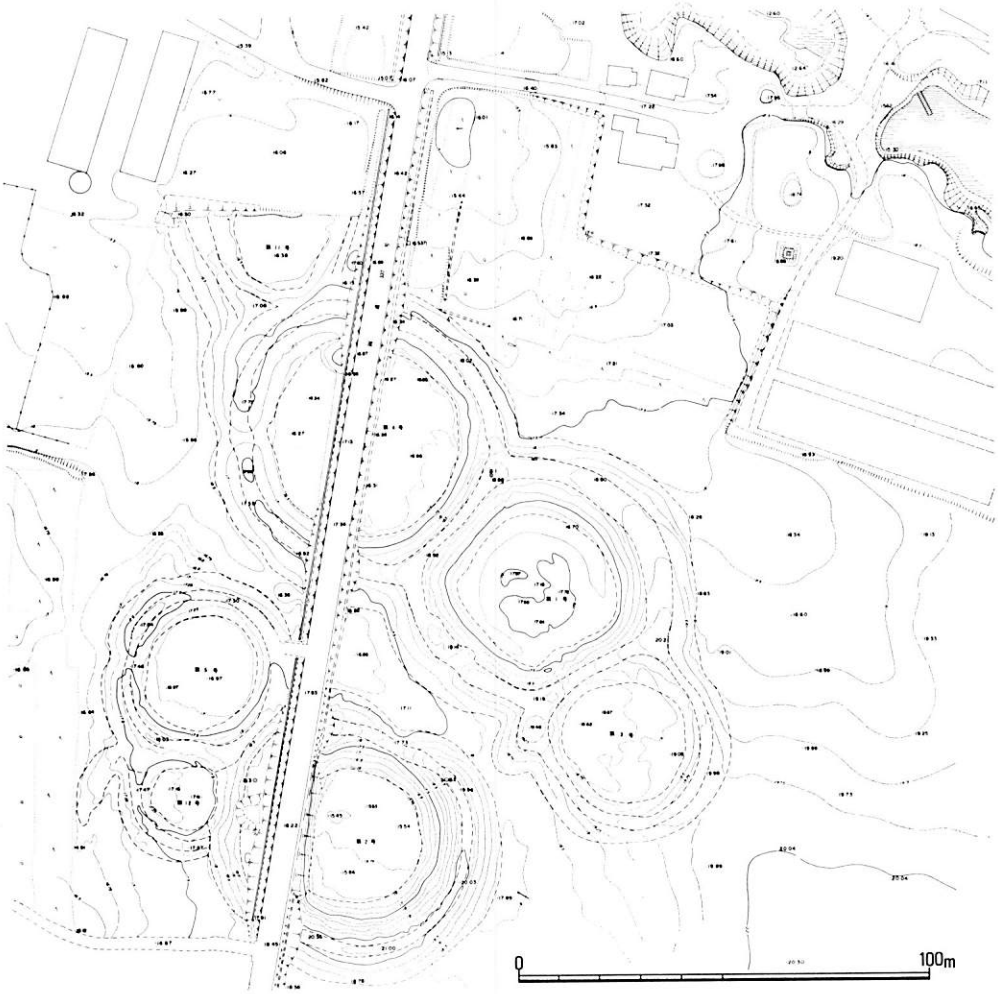
千歳市キウス環状土籬群の測量

埋蔵文化財センター

環状土籬は縄文時代後期末に，北海道において出現する特殊な埋葬施設である。環状に土を盛りあげ，その土堤によって内外を区画して墓壙を設ける。本州にみられる環状列石と同様の遺構といわれている。

キウス環状土籬は，千歳市東北郊外にある大規模土籬群である。最大のものは直径75m，周堤の高さが5mをこえるものを含んでいる。千歳市教育委員会はこの土籬群を，分布調査の一環として実測調査することになり，当センター測量研究室がこれに全面的に協力した。

実測は基準点測量と細部測量の二段階にわけて実施したが，細部測量の際には新たに二基の土籬を発見することができた。野外作業に要した日数は合計21日である。　　（西村　康）

＊「千歳市における埋蔵文化財（上）」（『千歳市文化財調査報告書』V　1979）